

「論文作成」のための特別講座 練習問題 7

問題 次の資料をよく読んで、各問に答えなさい。

[資料 1]

1950年に25億人だった世界の人口は現在、70億人で、2050年には93億人以上になると予想されています。人口が増えれば必要となる食料も増え、さらに開発途上国の人たちの食生活がよくなり、肉の消費などが増えれば、もっと大量の食料が必要となります。

これだけの食料を生産するには、2つ方法が考えられます。1つは田や畑などの農地を増やすこと。もう1つは、同じ面積の農地からとれる農作物の収穫量をあげることです。

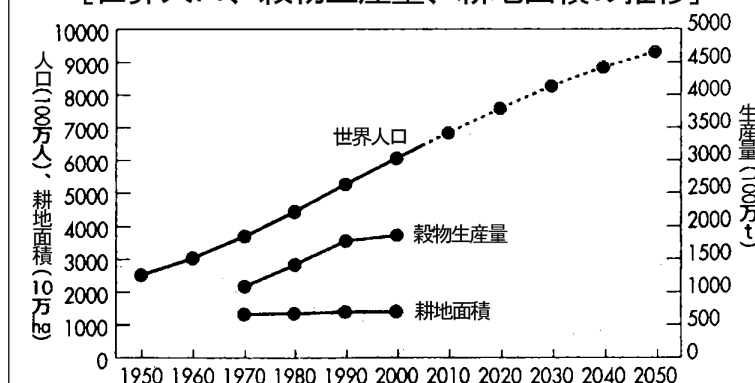
しかし、今後、世界の農地面積はあまり増えないと考えられています。それどころか、放牧のやりすぎや森林伐採などにより、毎年、日本の耕地面積と同じくらいの500万haが砂漠化しています。収穫量をあげることもむずかしいと考えられています。

遺伝子組み換えによる新しい品種の発明なども期待されていますが、種子だけで生産できるわけではなく、健康な土や豊富な水も必要になります。

まず、私たちが、今しなければならないことは、(後略)

[資料 2]

[世界人口、穀物生産量、耕地面積の推移]



「引用文献：七尾 純『食の総合学習 ③食と環境』あかね書房2007年4月 p. 40より」

(1) 「資料1」の文に表題をつけるとしたら、どのような表題がふさわしいですか。

15文字以内で答えなさい。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15

(2) 「資料2」から分かることを簡単に説明しなさい。ただし、200文字以内で答えること。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1															
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12															
13															
14															

(3) 食料問題について、「資料1」と「資料2」をふまえて、「資料1」の「まず、私たちが、今しなければならないことは、」の後に続ける文として、あなたの考えを600文字以内で書いてください。

「論文作成」のための特別講座 練習問題7 解説

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
(1)	世	界	の	食	料	は	足	り	る	の	か				

この「文」の筆者は、「食料は足りるの？」と表題をつけている。

「文の表題」のつけ方の、基本的な方法としては、「文中」に用いた「キーワード」か、同じ文言を使用することだとされている。短文で、「文」の内容を想像させたり、理解しやすくするために付けるのだから、「要約」の「最終形」としてとらえた方がよい。

そのように考えると、「不足する食料」とか「地球規模で不足する食料」などが「表題」としてふさわしいと思われる。

- (2) 「世界の耕地面積は、人口が急激に増えたにもかかわらず、ほぼ横ばいの状況である。穀物生産量は、農業技術の普及・改善により順調に増えてきたが、現在は増えないで止まっている。また、耕地面積はほとんど増加していない状況である。」(108文字)

(3) 「解説」

典型的な「資料読み取り型」の「小論文」である。

「資料」が示している「内容」を読み取り、その主旨に対して自分の考えを「小論文」として書くことが大切である。

「題意」は、「環境問題」の大きなテーマである、地球規模でとらえたときの「人口の急増と食料不足の問題」への解決策や解決に向けた個人の役割についての知識の豊かさと、正確さを試している。あわせて、様々な条件を考慮して結論を出すことと、その判断力と表現力を試している。

必要な、論文内容は、次のような項目である。筋道が通っていれば、展開順は違っていてもよい(必ず、段落分けすること)。

第1段 「引用」(論じる対象の限定)

第2段 「問題提起」+「判断(結論)」

第3段 「根拠」

第1段の「引用」の場面で、論じる対象を明確に示えること。すなわち、論じる対象は、「世界の人口増加」と「食料生産」のアンバランスから生じる地球規模の危機をどのように乗り越えるのかである。これを指摘することが、第1段での重要ポイントである。

第2段で、「需要」(消費)と「供給」(生産)の両側面から「問題提起」の内容を考えることができれば高いポイントが得られる。

すなわち、「需要」(消費)に関わる問題とは、「人口」、「消費」される「食材」の「質と量」などの問題である。一方で、「供給」(生産)に関わる問題は、「食料生産」の側面では農業、牧

畜・畜産業と漁業、さらに食品加工業に多くの問題が存在する。

それらの内のどれかを指摘して、結論としての「自分の生活・行動」を宣言しておくことが重要である。

第3段では、第2段で述べた結論としての「自分の生活・行動」の「根拠」を説明する際に、社会科学的な知識や、理科学的な知識を使用して説明できれば高い評価になる。注意すべきは、自分の実践方法を具体的に提案するための「根拠」になる事象をあげる必要がある点である。

「需要」（消費）の側面を取り上げることができる「社会問題」は、人口の増加と、食料不足による「飢餓」の問題である。日本だけの問題を取り上げると、食料自給率の低さは、やがて多くの国民が「餓死」することが確実にやってくることを意味していることである。

そもそも、「人口の増加」を抑制することは可能なのか。「家族内労働力」を必要とすると社会では「人口増加」は必要である。また、「人口増加」がないとやがて老人人口が若年人口を上回り、社会が成り立たなくなる可能性が高まる。様々なことから「人口抑制」は容易でないことが分かる。

ところで、食料は本当に足りないのか、という根本的な疑問もある。人口増加に見合う食料増産がされていないだけでなく、浪費していないかということを点検することも大切である。「生ゴミ」として捨てられている食料はないのか。日本などでは、規格に合わないサイズや形の野菜などは、市場に出荷されることなく、畑で捨てられていることもある。もともと人間が食べていたものを、家畜のえさにして、家畜の肉を人間が食べるようになった「肉食」傾向の食生活に問題はないのか。たとえば、トウモロコシを直接食べれば、豚を育てるために使用するトウモロコシより少なくてもすむ。そのことが世界中の「飢え」を解消することにつながる。などである。実は、トウモロコシは豚だけでなく、牛や鶏の餌にもなっている。「肉食」の増加傾向は、トウモロコシを主食にしているアフリカの人々を苦しめているのである。

さらに、海産資源に目を移すと、「養殖漁業」で育成された「はまち」や「たい」ばかりを食べるのではなく、「はまち」や「たい」の餌になっている「いわし」を食べるようにすると、「いわし」の「育成」につながる（はまちに餌として与えるより、消費量が抑えられるからである）。

他方、「供給」（食料生産）の側面で考えられることは、次のようなものである。品種改良、灌漑施設の整備、農地の拡大、肥料の改良・開発、農薬の開発、農機具の開発・改良など。

ところで、「耕地開発」や「灌漑施設」の設置・充実が唱えられているが、「耕地開発」のために「砂漠化」が進行しているという矛盾した現象が発生している。「灌漑施設」を開発すればするほど、一方で「水問題」も大きくなっているという矛盾も同時に発生していることを忘れてはなら

[参考資料]

人類はこれまで新品種の開発、灌漑施設かんがいしせつの整備、化学肥料や農薬などの使用によって、収穫量を増やしてきました。ただ、こうした方法も限界に達したと考えられています。化学肥料の使いすぎは土を殺し、農薬は土や水を汚染します。農業用水の不足も深刻です。

農薬や化学肥料を多用し、収穫量を増やしても一時的では意味がありません。将来にわたって食料を得るには、環境を破壊しない農業にとりくむ必要があります。

「引用文献：七尾 純『食の総合学習 ③食と環境』あかね書房2007年4月 p.40より」

ない。[参考資料]を読んで欲しい。

「答案」を書くテクニックとしては、「問題文」に提示されている「資料」とは別の視点で考えると「論文」になりやすい。

たとえば、このような「問題」の場合、「農業」と「工業」としての関係として考えると、社会問題の見え方が大きく変わる。

たとえば、「農業生産の拡大」に貢献する技術の発達とは、別の言い方をすれば、これらは、農業に工業化の技術を導入することでもある。その工業化の技術は、農業生産の拡大に力を発揮することもあるが、別の「副作用」(環境破壊)を生み出しているのも現実なのである。

あるいは、「働く場所」としての「食料生産」として考えてもとらえ方が具体的になるであろう。たとえば、「労働力」あるいは「労働者の数」という視点で考えると、日本などの先進工業国では、「農業」や「畜産」・「漁業」などの「食料生産」に関わる職域での「労働力」あるいは「労働者の数」は極めて少ない。その一方で、「工業化」された「食品」の「工業」の「労働力」あるいは「労働者の数」が多いという矛盾が生じている。原料を生産せずに、加工業だけを充実させているのが日本の産業界である。

このように考えると、「世界や日本の社会の食料問題」と「自分の仕事・職業」や「自分の食生活」との関連で考えやすくなるであろう。「結論部分」には、自分が将来につく「職業」との関連や「日常生活の営み方」を考えればいいのだ。

ちなみに、この「文」を書いた著者・七尾さんは、「開発途上国の軍事費をおさえ、灌漑施設を整えることや、自分たちが消費する食料を自ら生産すること」が大切だと主張している。

「小論文」を書く際に、考慮しなければならないキーワード・「知識」

次の[参考資料]に示されているような「品種改良、灌漑施設の整備、農地の汚染、化学肥料、農薬」の問題などである。

また、農地の流出(地表の表土の流失)、塩害による農地の砂漠化、遺伝子組み換えによる品種改良、軍事費の抑制、食生活の見直し、海産資源の保護・育成、栄養バランス、食料輸入、食の自給自足などを取り上げることができると高い評価となる。